

Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



Yankee Stadium Station

《 Yankees vs Mets 》

今回はニューヨークのMLB（メジャーリーグベースボール）チームの話。今も変わらないが、当時ニューヨークには「ニューヨーク・ヤンキース」と「ニューヨーク・メッツ」という2球団が存在し、ニューヨークではヤンキース・ファンとメッツ・ファンで完全に分かれていた。日本のプロ野球の球場に例えると、ヤンキースは読売ジャイアンツ（読売巨人軍）、メッツはヤクルト・スワローズのようなイメージになるだろうか。ヤンキース vs メッツ両球団の対決は、両チームの本拠地がニューヨーク市の地下鉄で結ばれていることに由来し、“サブウェイ・シリーズ”と呼ばれ、MLBで最も熱いカードのひとつとなっていた。その熱いカードの感じは、日本のプロ野球の試合に例えると、巨人 vs 阪神戦のイメージになるだろう。

ヤンキースの球場はヤンキー・スタジアムと称され、ニューヨークのブロンクスに佇んでいた。当時のヤンキー・スタジアムは外野フェンスが左右非対称な形状をしており、右翼側が狭くなっていたが、老朽化により2008年に閉場された。新設されたヤンキー・スタジアムと区別するため、旧ヤンキー・スタジアムとも呼ばれている。メッツの球場はシェイ・スタジアムと称され、ニューヨークのクイーンズに佇んでいた。シェイ・スタジアムもヤンキー・スタジアムと同じく、老朽化により2008年に閉場され、その近隣にシティ・フィールドが建設された。シェイ・スタジアムは1965年8月15日にザ・ビートルズが当時史上最大の屋外コンサート、史上初の野球場でのコンサートを行ったことでも知られている。

ちなみに、ニューヨーク生活でウェイターとしてお世話になっていたKODAMAレストランのオーナーは大のメッツ・ファンだった。メッツは1962年のエクспанションによって創設されて以降、お荷物球団のような存在だったが、1969年にワールドシリーズ優勝を果たした。その快進撃は“ミラクルメッツ”と称され、MLBの歴史で伝説のようにになっている。ニューヨーク生活を送っていた頃のメッツは、1993年に26年振りに負け数が100を上回ったが、1996年シーズン途中から、日本の千葉ロッテマリーンズでGM～監督を担ったボビー・バレンタインが監督に就任し、翌1997年に7年振りに勝ち越した。今でこそ、メッツは在籍経験がある日本人選手がMLB全球団で最多の計15人となっているが、1997年当時はメッツにとって球団初の日本人選手であった元読売ジャイアンツの柏田貴史投手が在籍していた。

当時のヤンキースについては、1995年にジョー・トーリ監督が就任し、この年は後のヤンキースの不動キャプテンとなるデレク・ジータ選手がデビューした年でもあった。その他、アンディ・ペティット、ホルヘ・ポサダ、マリアーノ・リベラやバーニー・ウィリアムス等、ヤンキース傘下のファームで育った生え抜き選手が成長していた。ヤンキースは翌1996年に18年振りにワールドシリーズに進出し、1997年には伊良部秀輝投手が初登板初先発初勝利を達成。その後、1998年から2000年にかけてワールドシリーズ3連覇を達成した。

当時、KODAMAレストランのバーでも、マンハッタンスポーツバーでもヤンキースやメッツの試合がある時は、当たり前のようにテレビやスクリーンで流されていた。それぞれのチームのキャップを被った根っからのベースボールファンも多く、ビールを片手にMLBを純粋に楽しみ熱狂している人たちの姿は日常の風景で、今では懐かしい思い出だ。

Hawaii Walker's (ハワイの歩き方)

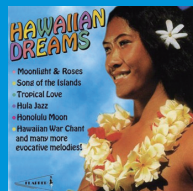
EP Bar

イーピー・バー

今回はオアフ島ホノルルのヌウアヌ・アベニューに佇む「イーピー・バー」。2022年1月にハワイ初のリスニングバーとしてオープンした。壁一面にアナログレコード（LP）とお酒のボトルが並ぶお洒落なバー。「EPハイボール」「Kyohoハイボール」「Umaiハイボール」等、ハイボールをはじめ、ワイン、カクテル、ビール、日本酒も揃っている。音楽好きでゆったりとお酒が飲めるお洒落なバーに行きたくなったら、ぜひ訪れてみて欲しい。レコードのコレクションは2300枚に及び、HPにも掲載されている。

HP: <https://www.epbar.co>

《 ハワイな一枚 》



ハワイアン・ドリーム

Various Artists

Pearl [Import CD]

フェリックス・メンデルゾーンやザ・ハワイアン・アイランダーズ、レン・フィリス等の心地良いハワイアン楽曲22曲を収録したハワイアン・コンビ・アルバム。